



Creative Application A22

存在とメディア実装1

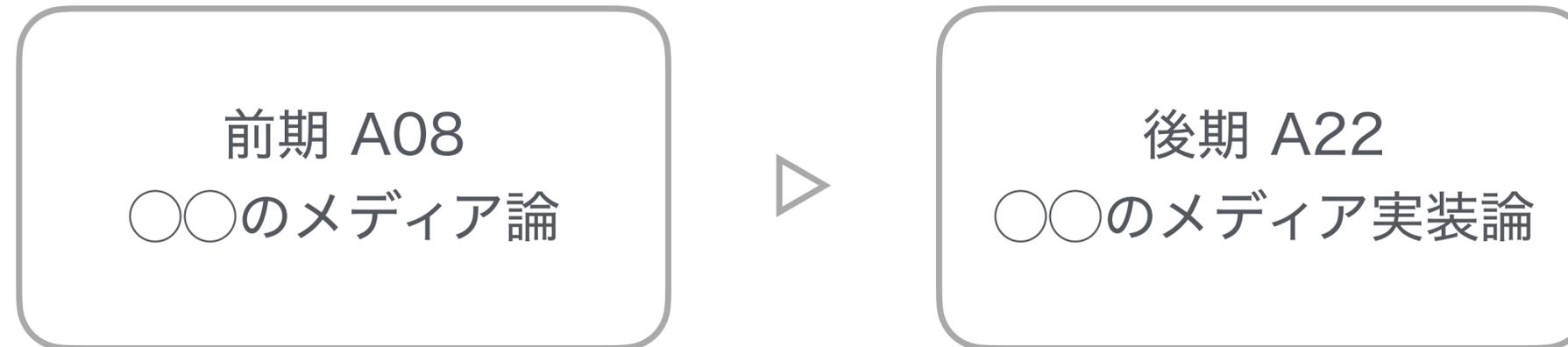
「ホワイトスペース」 無いはある

2023年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

受講のてびき

- ・ 本資料は作成者の解釈が含まれます, 答えのない議論があります
- ・ 前半で1テーマの紹介, 後半でテーマを深める議論を行います
- ・ 前期と後期がリンクしています. 予習復習の参考にしてください



本日のテーマ

- ▶ **無いは有と有をつなぐメディア**

前期概要

- ▶ ゼロの発見と存在への問い
- ▶ 存在論と認識論
- ▶ ゼロ・無・空白への注目
- ▶ 無が在ることへの関心と無と有の活用

ホワイトスペース・間・虚空

- ▶ チヒョルト
 - ▶ 「要素間の何もないスペースは積極的な意味を持つ要素」
- ▶ 世阿弥
 - ▶ 「せぬところが面白い」 所作と所作の間を心でつなぐ
- ▶ 虚空(アーカーシャ)
 - ▶ 何もない空間, すべてのものが存在するところ

ホワイトスペースのメディア性

- ▶ ホワイトスペースが周囲の存在感と意味を強調する
- ▶ 要素と要素の間(無)が総体のつなぎになり、メッセージを強くする

カレーは美味しい。タミル語のカリ（kari、スープの具の意味）またはカ ril（karil、スパイスで味付けされた野菜や肉の炒め物）が語源とされる。複数の粉末香辛料を混合させて作ったソースを用いた料理全般を指す。もともとインド人は「カレー」という言葉を使わずそれぞれのカレー料理には個別の名称が用いられていたが、17世紀初頭ごろよりポルトガルなどの欧州圏においてカレーという言葉の記述が見られるようになり、広く世界に普及した。

カレーは美味しい

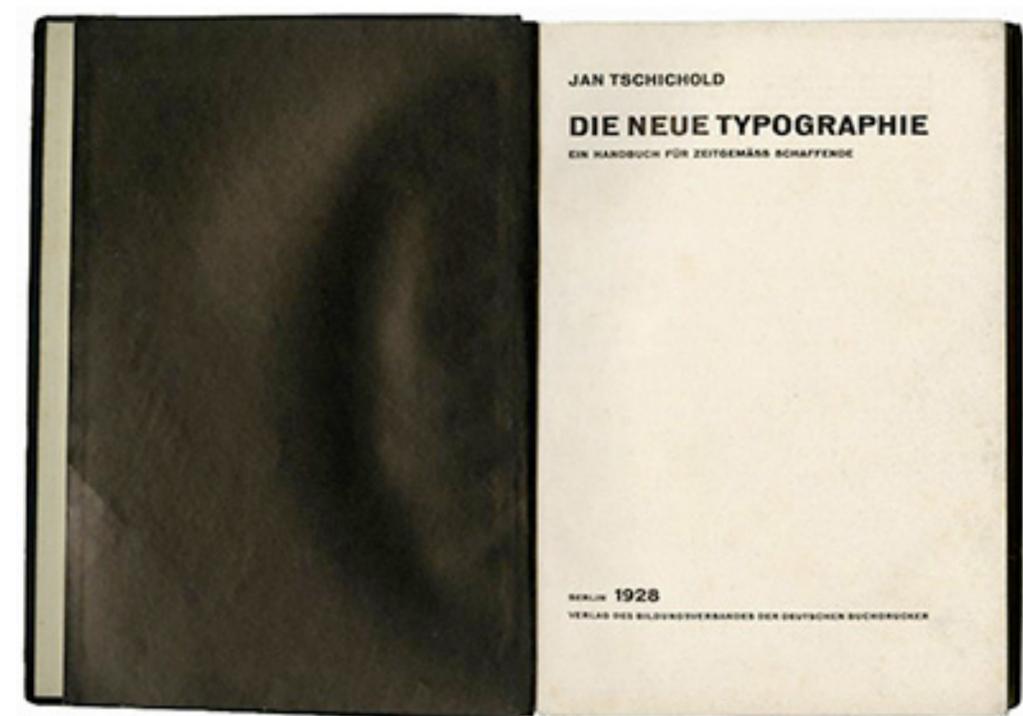
タミル語のカリ（kari、スープの具の意味）またはカ ril（karil、スパイスで味付けされた野菜や肉の炒め物）が語源とされる。複数の粉末香辛料を混合させて作ったソースを用いた料理全般を指す。

もともとインド人は「カレー」という言葉を使わずそれぞれのカレー料理には個別の名

引用: Wikipedia日本語版「カレー」 2023.02.06 13:56版 <https://ja.wikipedia.org/wiki/カレー>

ホワイトスペースと図・地の融合

- ▶ ホワイトスペース(地)は伝えたいモチーフ(図)を引き立たせる
- ▶ 図と地が渾然一体・不可分となったメッセージも帯びはじめる



まとめ

- ▶ 無の発見から導き出された存在の認識と議論
- ▶ ホワイトスペース
 - ▶ 無は「何もない」だけでなく、積極的な意味を持つ
 - ▶ 空間に限らず、時間の無もまた意味を持つ
 - ▶ 無と有が総体となって強いメッセージとなる

本日の議論・考察一助

- a. ホワイトスペースが要素に与える影響とは、一体なんであろうか
- b. ホワイトスペースとメディアの関係性を改めて整理したい
- c. **具体的なホワイトスペースの例を取り上げて議論**

次回予定

存在とメディア実装2

「リアリティ」存在感を醸す

参考文献

1. 藤田一照, 「アップデートする仏教」, 幻冬舎, 2013
2. 藤田一照, 永井均, 山下良道, 「仏教3.0を哲学する」, 春秋社, 2016
3. 飲茶, 「史上最強の哲学入門」, 河出文庫, 2015
4. 飲茶, 「史上最強の哲学入門 東洋の哲人たち」, 河出文庫, 2016
5. 森田真生, 「数学する身体」, 新潮社, 2018
6. 西田幾多郎, 「善の研究」, 青空文庫, 1979
7. 藤田正勝, 「日本哲学史」, 昭和堂, 2018井筒 俊彦, 「イスラーム文化 - その根底にあるもの」, 岩波書店, 1991
8. 竹田青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
9. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
10. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
11. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018
12. アレックス・オスターワルダー他著, 小山龍介訳, 「ビジネスモデル・ジェネレーション ビジネスモデル設計書」, 翔泳社, 2012
13. ティム・クラーク他著, 神田昌典訳, 「ビジネスモデルYOU」, 翔泳社, 2012
14. ティム・クラーク、ブルース・ヘイゼン他著, 今津美樹訳, 「ビジネスモデル for Teams」, 翔泳社, 2012
15. 沼上幹, 「組織デザイン」, 日本経済新聞出版, 2004